

2010年度

科目名	卒業研究				
担当教員	野口 民夫				
配当	薬5・6			コード	80610
開期	集中通年	講時	集中0限	単位数	12
授業テーマ	【必修】下記参照				
目的と概要	<p>卒業研究には薬学教育モデル・コアカリキュラムの総合薬学研究と総合薬学演習が含まれる。</p> <p>総合薬学研究 〔目的〕 薬学の知識を総合的に理解し、医療社会に貢献するために、研究課題を通して新しいことを発見し、科学的根拠に基づいて問題点を解決する能力を修得し、それを生涯にわたって高め続ける態度を養うことを目的とする。</p> <p>〔目標〕 (1) 将来、研究活動に参画できるようになるために、必要な基本的理念および態度を修得する。 (2) 将来、研究を自ら実施できるようになるために、研究課題の達成までの研究プロセスを体験し、研究活動に必要な基本的知識、技能、態度を修得する。 (3) 研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知る。</p> <p>総合薬学演習 〔目的〕 新しい医薬品が社会のニーズに応え、医療の発展にいかに関与してきたかを理解するために、代表的な疾患あるいは画期的な現代医薬品を取り上げて調査し、考察することを通して、医薬品を多面的に評価する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>〔目標〕 (1) 代表的な疾患や画期的な現在医薬品に関して多角的に調査し、最新の情報に基づき自ら統合的に考察することを通して、薬剤師が高度で最新の知識を維持していくことの意義を知る。 (2) 将来、医療現場において重要な最新の科学情報の中から、有益な情報を選定し、これらを統合して発信する実践的な技能、態度を修得する。 (3) 将来、医薬品の企画開発や医療現場における問題解決に必要な実践的な科学情報を収集し、多面的に評価する技能、態度を修得する。</p>				
成績評価法	卒業論文、卒業発表、研究への取り組み姿勢を総合して評価する。これらの評価の配点は後日知らせる。				
テキスト	適宜紹介する。				
参考書	適宜紹介する。				
履修に当たっての注意・助言	自分で調べ、考え、まとめ、覚え、討議し、記述し、発表すること。 なお、卒業研究は2年にわたって行われ、成績の評価は2年目に行われる。				
講義計画					
<p>1. 有機化学講座 担当教員・補助教員:宮下和之・池尻昌宏・千原佳子 (1) 高選択的な脱リン酸化酵素阻害剤の開発研究 (2) GFPをモチーフにした新規蛍光化合物の合成研究 (3) 抗ウイルス活性を示す新規複素環化合物の合成研究</p> <p>2. 分子化学講座 担当教員・補助教員:谷本能文・森本正太郎・錦織理華 (1) 医薬品物性—医薬品構造相関の研究 (2) 鉄や希土類を含んだ医薬品関連化合物の物性評価の研究 (3) 化学反応に対する磁気影響の研究</p> <p>3. 生化学講座 担当教員・補助教員:寺田知行・西中徹・三浦健 (1) 薬物代謝酵素遺伝子の発現制御に関する研究 (2) 薬物代謝酵素の機能制御に関する研究 (3) 抗酸化酵素遺伝子の発現制御に関する研究 (4) 抗酸化酵素の機能制御に関する研究</p> <p>4. 分子生物学講座 担当教員・補助教員:野口民夫・田中高志・山本太一 (1) 炭水化物応答性転写因子とピルビン酸キナーゼの転写調節機構とその異常の研究 (2) 肝臓の発生・分化過程でのHexによる転写調節機構の研究</p> <p>5. 衛生・微生物学講座 担当教員・補助教員:谷佳津治・見坂武彦・迫谷有希子 (1) 細菌ゲノムの多様化機構の解明 (2) 細菌の生理活性評価に関する研究 (3) 環境中における微生物の動態に関する研究</p>					

6. 薬理学講座 担当教員・補助教員:小山豊・綿野智一・田中一裕
 - (1) グリア細胞の病態生理に関する研究
 - (2) 脳浮腫の発生機構に関する研究
 - (3) 新規脳機能改善薬の開発に関する研究
7. 薬剤学講座 担当教員・補助教員:村上正裕・堀切勇児・高間雅志
 - (1) ドラッグデリバリーシステムの開発
 - (2) 薬物消化管吸収に関する生物薬剤学的研究
 - (3) 機能性高分子および微粒子製剤に関する研究
 - (4) 製剤評価法の開発研究
8. 衛生・毒性学講座 担当教員補助教員:田中慶一・関庚善・上田英典
 - (1) 重金属代謝及び毒性発現に関わる生体リスクファクターの研究
 - (2) 高脂肪食摂取による肝障害発症の研究
 - (3) 健康食品を含む化学物質の毒性学的な学術情報調査と調査研究
9. 医薬品化学講座 担当教員・補助教員:前崎直容・広川美視・北村麻理愛
 - (1) 生理活性リグナン類の合成研究
 - (2) 生理活性天然物から医薬品の可能性を持つ新規化合物の設計と合成研究
 - (3) 生理活性化合物の合成と創薬化学に関する調査研究
10. 免疫学講座 担当教員・補助教員:小野史郎・楠本豊・奥山洋美
 - (1) リンパ球-抗原提示細胞相互作用における機能分子の解析
 - (2) ケモカイン受容体発現とリンパ球浸潤機構
 - (3) 腫瘍免疫や自己免疫/アレルギー疾患の人為的制御の研究
11. 臨床薬理学講座 担当教員・補助教員:雪村時人・山形雅代・筒居秀伸
 - (1) 腎障害の発生メカニズムの解明
 - (2) タンパク尿の出現メカニズムの解明
 - (3) 骨代謝におけるビタミンDアナログの薬理学的作用発現におけるメガリンの関与
12. 薬物治療学講座 担当教員・補助教員:田中静吾・竹橋正則・奥田明子
 - (1) 神経疾患モデルを用いた病態生理の解明と治療法の開発
 - (2) 組織幹細胞の増殖および分化メカニズムの解析
 - (3) 神経疾患と再生医療に関する研究情報の収集と分析
13. 漢方医療薬学講座 担当教員:谿忠人
(一般目標) 現代医療の中で漢方医療を分担できる薬剤師を養成する
 - (1) 漢方医学診断(証)と対応する漢方薬の薬能や漢方処方の方意を学ぶ
 - (2) SGDを踏まえて漢方製剤を適正に使用する知識と技能を修得する
14. 薬物動態学講座 担当教員:藤井敏彦
 - (1) 新薬の薬物動態的特性にかかわる研究
15. 医薬品開発学講座 担当教員:西山省二
 - (1) 老年者の血中微量元素動態と疾患との関連性解析
 - (2) 画期的新薬の開発上の特長(医療および科学的背景)の解析
16. 臨床薬学教育研修センター(実践医療薬学講座、医療薬学講座、臨床薬剤学講座)
担当教員・補助教員:小川雅史・廣谷芳彦・小西廣己・上島秀樹・名徳倫明・初田泰敏・川西園代・池田賢二・伊賀幾美
 - (1) 医薬品適正情報、安全性情報のあり方に関する研究
 - (2) お薬の啓発事業に関する研究
 - (3) ITを活用した医薬情報提供ツールの開発研究
 - (4) 医療コミュニケーションのあり方に関する研究
 - (5) 薬剤師業務全般における研究
 - (6) 薬物代謝・トランスポーター関連の薬物相互作用に関する研究
 - (7) 栄養管理・緩和医療・癌化学療法に関する薬学的臨床研究
 - (8) 医薬品による臓器障害とその軽減法に関する研究
 - (9) 薬物代謝および薬物相互作用と薬物体内動態変動に関する研究
 - (10) 医薬品の安定性と適切な調剤方法に関する研究